



〈 社会人の窓 15 〉

水問題と向き合った半世紀

木村 昌弘



新型コロナによるパンデミックが猛威を振るう中で、私は、昭和48年に大阪府に就職してから民間会社を含めて、延べ48年間の職場生活を終えました。今年4月から晴れてフリーの身となり、現在は澤井先生が理事長を務められている日本水防災普及センターなどでボランティア活動などを行っています。淀川愛好会の行事には最近ほとんど参加させていただいておりませんが、ここでは大阪府時代の業務を振り返り、水問題に関する思いを伝えたいと考えています。

大阪府では、当初、私は治水事業に携わり、府内の河川改修計画の策定や、その後のわが国の治水行政に影響を与えた大東水害訴訟を担当しました。この水害訴訟では治水対策の遅れが争点となり、裁判には最高裁で逆転勝訴したものの、今、この時期に私が策定した計画で整備されたコンクリートや鋼矢板などで固められた河川を見るたびに自らの責任を感じ心が痛むしいです。その後、治水優先から河川環境も重視される時代の流れの中で、地方自治体でのわが国最初の本格的な河川環境整備計画と自負している「安威川 水と緑の回廊計画」や流域の歴史文化環境を踏まえた流域と一体となった河川環境の創出構想である「石川あすかプラン」などの策定を行ないました。それらの河川が現在、住民の皆様により活用され支えられている現状を見ると少しは罪を免れる思いです。その後も、狭山池ダム事業では環境対策や築造の歴史が刻まれたダム堤体の保存、博物館建設などの土木遺産の保全にも取り組むことができました。最後の10年となった水道部では、阪神淡路大震災を契機とした水道地震対策やおいしい水を供給する高度浄水処理事業に関与することとなりました。

この府庁時代には、河川行政も治水・利水から環境へ、また水道行政も量から質の時代へと大きく変貌してきました。その中で常に新たな事業の先導役として、環境と調和した河川づくりやおいしい水づくりなど、時の最先端に行く仕事に当たれたことは、私の人生経験にとって非常に幸いでした。

今年3月、我が家の近くにある京大高槻農場の跡地に、広大な安満（あま）遺跡公園が全面開園しました。ここは「住民とともに創る公園」をコンセプトとしており、安満人倶楽部（あまんどクラブ）として様々な分野のボランティアが活動しております。私はその中の防災と歴史のグループに所属し、被災時の車中避難訓練や過去の災害のパネル展示など地域レベルでの水害対策の啓発活動に参加しています。

今、地球温暖化による豪雨災害が頻発し、河道だけでなく流域全体で治水に取り組む流域治水の必要性が叫ばれています。フリーになった今、これまでの経験を活かし、一人の技術者として、これらを含め社会に何らかの貢献ができたかと考えています。

（ NPO法人 日本水防災普及センター 運営委員、 博士（工学） ）

井上治先生のご逝去を悼む

淀川愛好会相談役 澤井 健二

令和3年4月30日、淀川愛好会初代会長で、長年、顧問をしていただいていた井上治先生がご逝去されました。(享年85歳)

私が摂南大学に着任して5年目の1997年4月、学内の学生サークルとしての淀川愛好会を立ち上げ、その顧問になったところ、文化会土木工学研究部の顧問をしておられた井上先生から、そろそろ定年が近づいてきたので、顧問を引き継いでくれないかというお声をいただきました。私は、喜んでお引き受けすることにしたのですが、その時、井上先生に2つのお願いをしました。一つは、クラブの名称を土木工学研究部からエコシビル部に変更させていただけないかということ。もう一つは、淀川愛好会を市民サークルに拡大したいので、井上先生にその会長になっていただきたいということでした。井上先生は私の2つのお願いを快く受け入れて下さり、同年末に、市民サークルとしての淀川愛好会が発足しました。

淀川愛好会の最初の大きな屋内イベントは、1998年2月23日に摂南大学12号館で開催した淀川討論会です。この討論会において、井上先生は「旧枚方の宿場町について(淀川に点在する歴史の跡)」と題する講演をして下さいました。そして、最初の大きなフィールドイベントは、同年4月29日に枚方水辺公園で行った春のイベントです。このイベントでは、午前中に淀川資料館を見学し、公園の指定場所でバーベキューを楽しんだ後、淀川本川でEボートに乗り、最後に河岸清掃をするという本会独特のメニューをこなしました。そして、7月26日には淀川河川公園太間地区で夏のイベントを行いました。この時には、午前中に大阪府立淡水魚試験場(現在の生物多様性センター)を見学した後、淀川新橋下でバーベキューを行い、さらにEボート乗船と河川清掃、着衣泳講習まで行うというものでした。

それらの経過は、淀川愛好会の機関誌であるYODORIC NewsのNo. 1～No. 3に詳しく載っています。

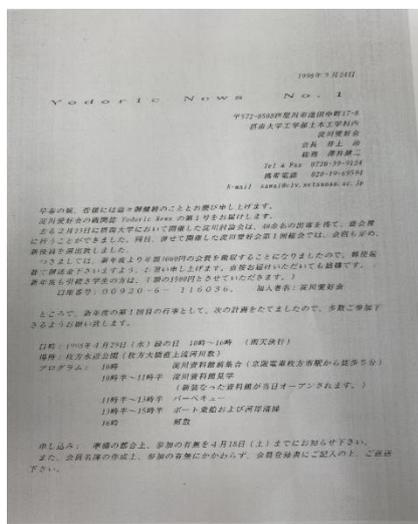
翌年、井上先生は淀川愛好会顧問に就いて下さり、当時の学園総長・理事長であった藤田進先生に名誉顧問をお願いして下さるなど、学園内での淀川愛好会の認知を確たるものにして下さいました。

井上先生は2000年3月末をもって摂南大学を退職されましたが、その後も淀川愛好会をいつも気にかけて下さり、イベントのたびに多額のご寄付を賜っていました。おかげで当会は近畿における水辺活動団体の核ともいえるまでに成長することができました。篤くお礼申し上げます。

先生は大変多趣味で、写真、絵画、料理、乗馬、園芸と次々に新しいことに挑まれ、また、奥様を初め、ご家族のことをたいそう大事になさっているご様子で、敬服致しておりました。

まだまだお教えいただきたいことがありましたが、どうか天国から私たちをお見守り下さいませよう、お願い致します。

合掌



1998年3月24日 YODORIC NEWS No. 1



2014年1月11日 淀川愛好会新年会：総会での井上治先生

イベント案内

淀川愛好会秋のイベント

日時：2021年10月16日（土）10時40分京阪バス「日野誕生院」集合

（京阪六地蔵10:21発の京阪バスが便利。または京都市営地下鉄東西線石田駅から東へ徒歩20分）

内容：日野南山ハイキング（健脚向き）、弁当持参 申し込み締め切り：10月9日（土）淀川愛好会事務局まで

流域情報

日本水防災普及センター「水防災セミナー」

日本水防災普及センターでは、昨年10月、NPO法人に登録されたのを機に、月例の水防災セミナーを開こうということになり、既に10回を数えます。



第1回は、2020年10月22日にセンターの活動拠点であるCANVAS谷町で行いましたが、その後は、コロナ禍であることも配慮して、オンラインで行おうということになり、遠方の方も参加しやすくなっています。

第6回までの参加者は、ほとんどセンターの会員のみでしたが、第7回からは、会員以外の方にも積極的に呼びかけ、参加者数も20名を超えるようになってきました。

第1回 2020年10月22日（木）19時～

テーマ：流域治水から水防災を考える 講師：日本水防災普及センター理事長 澤井健二氏

第2回 2020年12月16日（水）19時～

テーマ：災害情報の活用方法 講師：日本水災害普及センター理事 石中英司氏

第3回 2021年1月23日（土）17時～

テーマ：遊水地（越流堤）の機能 講師：日本水防災普及センター理事長 澤井健二氏

第4回 2021年2月19日（木）19時～

テーマ：災害情報の活用方法 講師：日本水防災普及センター事務局長 柳沼宣裕氏

第5回 2021年3月25日（木）19時～

テーマ：流水型ダムについて 講師：日本水防災普及センター理事長 澤井健二氏

第6回 2021年4月22日（木）19時～

テーマ：大戸川ダムの論点 講師：日本水防災普及センター理事長 澤井健二氏

第7回 2021年5月27日（木）19時～

テーマ：流域治水と大東水害訴訟 講師：元大阪府水道部理事 木村昌弘氏

第8回 2021年6月24日（木）19時～

テーマ：流域治水と大東水害訴訟2 講師：元大阪府水道部理事 木村昌弘氏

第9回 2021年7月26日（月）13時半～

テーマ：みんなで取組む「総合治水」 講師：兵庫県総合治水課長 八尾昌彦氏

第10回 2021年8月26日（木）19時～

テーマ：生きのびるための流域思考 講師：鶴見川流域ネットワーク代表理事 岸由二氏

毎回、約1時間の講演の後、30分の討論の予定でスタートするのですが、活発な質問やコメントが続き、2時間をオーバーすることもしばしばです。今後のテーマや講師についてご希望があれば、お聞かせいただくと幸いです。（S・K）

私の学校生活

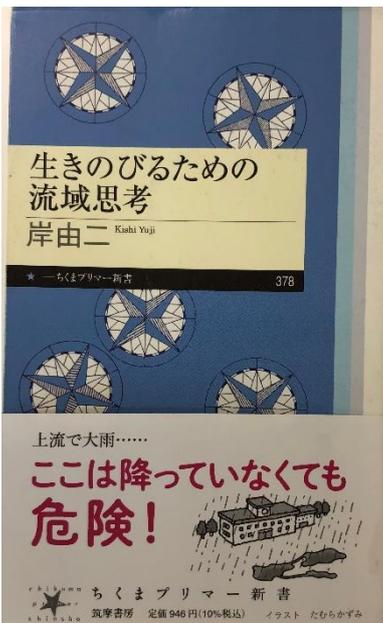
山本 歩華

私は、理工学部・都市環境工学科に所属しています。コンクリートの構造や地盤、環境など幅広い視野から学修をしています。さらに、教職課程も履修しているため、教育についても学びを深めています。コロナで、オンラインでの授業になってしまったものもあり、大学1年生の時と比べると大学生活は大きく変化しました。しかし、私の場合は、実験や教職など、対面で行われる授業が多かったため、特に3年生の前期は、ほとんど学校へ通い、学校で勉学に励んでいました。

また、私はエコシビル部に所属しているのですが、部活動についても中止になった活動はいくつもありました。しかしそのような中でも、寝屋川市にある淀川・点野地区の整備は、月に一度変わらず行っています。寝屋川市の市民の方をはじめ、たくさんの方と一緒に、外来種の駆除や、伸びてしまった草の駆除などを行い、整備に努めています。変化が絶えないですが、今できることに一生懸命努めています。

(摂南大学 理工学部 都市環境工学科 3回生・エコシビル部 副部長)

新刊書籍紹介



毎年、大規模水災害が起きています。それでも私たちの多くは、明日の朝はいつものように目が覚めると信じています。私たちは紛争地域で暮らしているわけではなく、自然と戦闘状態にあると考えると、状況は変わってきます。河川を制御しようとしても今後の気候変動には対応できるものではありません。そのため河川管理者だけでなく、すべての関係者の協力に対応しようというのが「流域治水」の基本理念です。

「流域治水」を実現するために、具体的に誰が、何を、いつ、どのようにすればいいのか簡単ではない現状が立ち塞がっています。本書はそんな私たちの現状に、鶴見川流域での40年間の実績紹介とともにヒントを示してくれています。本書のタイトルにある「流域思考」は流域全体を俯瞰して、流域の自治体の枠を超えて連携した総合的な政策を実行するだけでなく、自然環境や文化等を含めて「流域」ですべての関係者が「思考」することだと教えてくれます。さらには私たちの生き方の根本でもある生きのびるための「地図」を作り直すことを求めています。(I・E)

「生きのびるための流域思考」 著者：岸 由二 出版社：筑摩書房（ちくまプリマー新書）発行日：2021年7月8日

関連書籍：「自然へのまなざし - ナチュラリストたちの大地」、「流域地図」の作り方：川から地球を考える」

編集後記

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は9月5日で無事に閉幕しました。

コロナ禍による緊急事態宣言が、また、首都圏などの大都市圏を中心に9月30日まで延長され、淀川愛好会のイベントも中止が続いています。

人と人との「フェース to フェース」によるコミュニケーションが早く取り戻せることを願っています。

編集長 岡崎善久（岡崎善久建築設計事務所）

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP： <http://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric/>

E-mail： ishida@civ.setsunan.ac.jp